

学校点描

少しずつ暑さも弱まってきたように感じます。それでも、人々の体には夏の疲れがまだ留まっているように見受けられます。

《M中学校》

NO.9

R5. 9. 5

担当：校長

7月30日（日）に、M市のYぎんホールにて第62回吹奏楽コンクールM形県吹奏楽コンクールが開催され、M中学校吹奏楽部の演奏は銅賞となりました。

同日に、M町民コートで開催された、第34回若鷺杯争奪ソフトテニス大会ソフトテニス若鷺杯にて男子団体部で優勝に輝きました。

9月2日（土）に地区ソフトテニス秋季大会が開催され、男子個人の部でS・J／S・Sペアが優勝、S・T／S・Gペアが準優勝、S・M／T・RペアとS・R／K・Yペアが第3位に輝きました。女子の部は、T・M／S・Aペアが第5位に入賞しました。

Y県卓球選手権大会兼全日本卓球選手権大会の地区予選会が、夏季休業中に開催されました。結果、男子シングルの部でO・Gさんがベスト4、I・Sさんがベスト8に、ダブルスの部でO・G／O・HペアとI・S／O・Rペアが3位に入り県大会の出場権を得ました。8月26日（土）に県体育館とS市民体育館で開催された県大会に出場しました。

8月29日（火）に、Y大学大学院社会文化創造研究科音楽芸術プログラムで学ぶ大学院生4名と指導する教授が来校してくださり、場所を中央公民館に移して全校生徒で演奏を鑑賞しました。お昼休は校長室で休んでもらいました。「緊張しました。でも中学生が一生懸命聴いてくれて私たちもうれしくなりました」そんな感想を4人とも話してくれます。午後は3年生の合唱指導をしていただきました。

はじめの一步

今年は、S見地区や大堀地区、T澤地区から代表の方が校長室を訪れ、それぞれの祭りについて説明してくださいます。そして、ぜひ中学生に地区の祭りに参加してほしいこと、吹奏楽部の演奏で盛り上げてほしいことを熱心に語っていただきました。

異口同音に「子どもが減ったし、小学校もなくなったし、地域も寂しくなってねー」という話を口にしていました。

8月31日（木）にM地区少年の主張大会をM中学校で開催する予定でしたが、日中の体育館の暑さを考え、急遽中央公民館の大ホールをお借りしてそこで実施しました。全校生徒は、二日前の山っ子コンサートに次いで会場まで移動しての参加です。管内11校の各中学校（1校欠席）から選ばれた弁士の中学生の弁論を聴きました。本校代表の弁士は3年生のA・Sさんです。この日に向けてY・A先生と練習を積み重ねてきました。

大会当日の朝、校長室に、わざわざA・Sさんが来てくれました。これから会場に向かうそうです。「とても緊張しています。」と、正直に今の気持ちをわたしに教えてくれます。



最優秀賞を受賞したA・Sさん

A・Sさんの少年の主張の演題は「はじめの一步」です。

T澤地区に伝わる“富山観音太鼓”その伝統芸能に参加していることが話の舞台です。太鼓の響きというシンプルな音の中に秘めてある奥深さ、そのシンプルな音の響きだけで聴く人の心を動かす凄さとそれができたときの清々しさ、そんな、伝統文化の体験をもとにした弁論です。

・・・「太鼓なんて何が面白いの？」と思う人もいるでしょう。でも、やってみると、とっても奥深いんです。太鼓には音階がある訳ではありません。音は皮面をたたく「ドン」という音と縁（ふち）を叩く「カッカ」という二種類のみ。その二つの音だけで構成されているとても単純な音楽です。それなのに、聴衆を魅了したり高揚させたりすることができる。・・・この演奏後の爽快感を皆さんにも一度味わってほしい。・・・（少年の主張「はじめの一步」より）

太鼓の練習を続けていくうちに自分もその伝統を伝える一人になりたいという思いに変わったことに話が展開されていきました。



山っ子コンサート

山っ子コンサートに来た4人の大学生。うち二人は声楽専攻で、二人はピアノ専攻で学んでいました。昼食も済んだ頃に、「いつ頃から声楽専攻とかピアノ専攻とか、専門コースを決めたの？」と尋ねてみました。4人とも同じ答えでした。「大学入試の前あたりです」そしてこう続けます。「何も音楽で食べていくなんていう高い理想があるわけではないんです。ただ自分が楽しんでいることで、人の

心が明るくなったり元気になってくれるとしたら最高です。」

太鼓は私に自信をくれました。努力が実る喜び、音楽で周りの人を感動させる楽しさ。何より「困難なこともやってみたら何とかなるという前向きな姿勢を教えてくださいました。伝統を守るという高い志からでなくても、気になったから始めてみる、でいいのです。そこには、きっと、今まで経験したことのない新しい世界が待っています！」（少年の主張「はじめの一步」より）

山っ子コンサートの大学生も、伝統芸能に打ち込む中学生も、“はじめの一步”は、自分が楽しいことだったと語ってくれました。ただ純粋に“面白い”“楽しい”と打ち込む姿勢が、知らず知らずに文化を繋いでいく熱い思いの一步目になることを知りました。

打ち込む何かと出会うこと、それが「今」を変える『はじめの一步』と教えてくださいます。

きりとせん

ご意見・ご感想をお願いします。